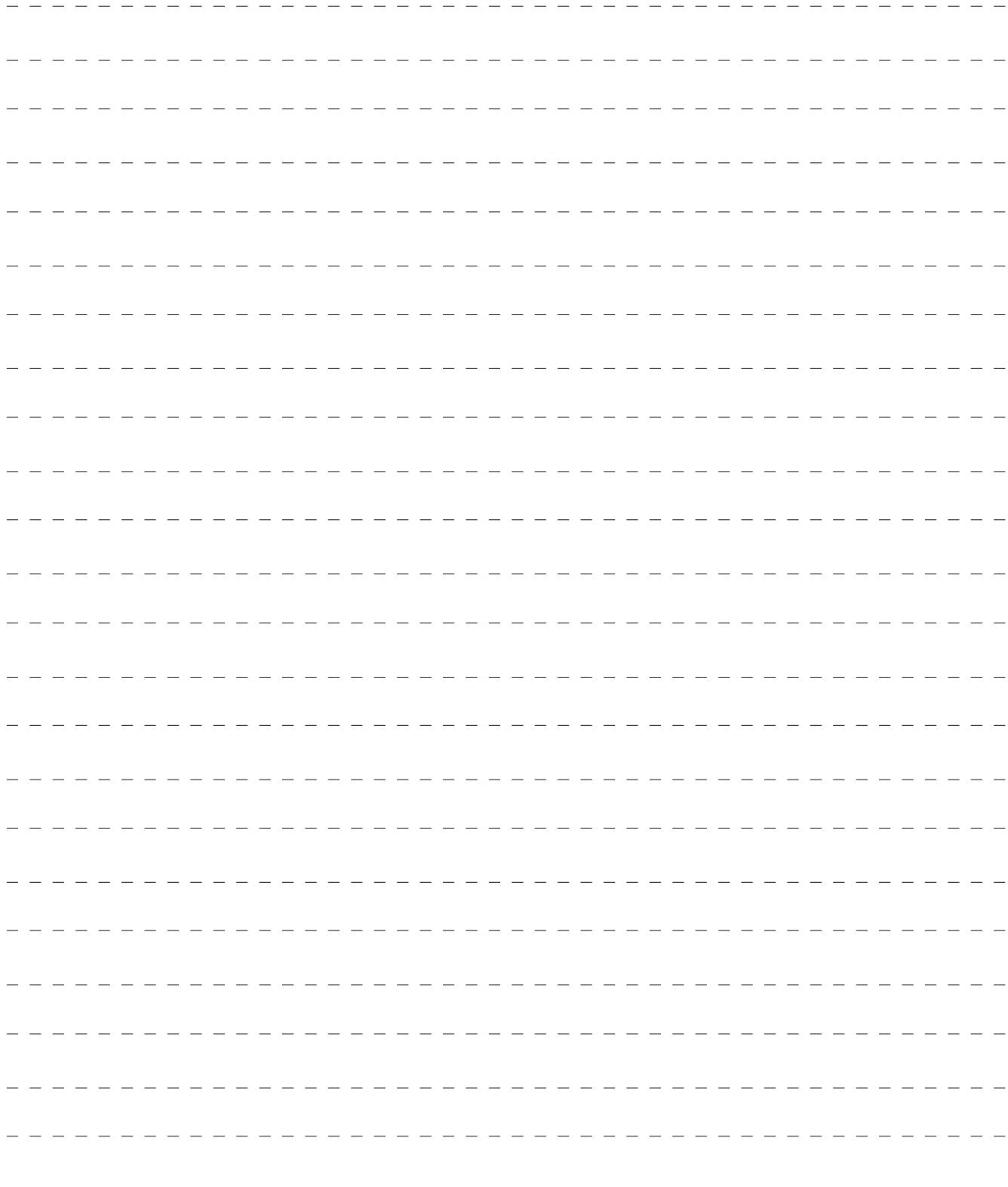
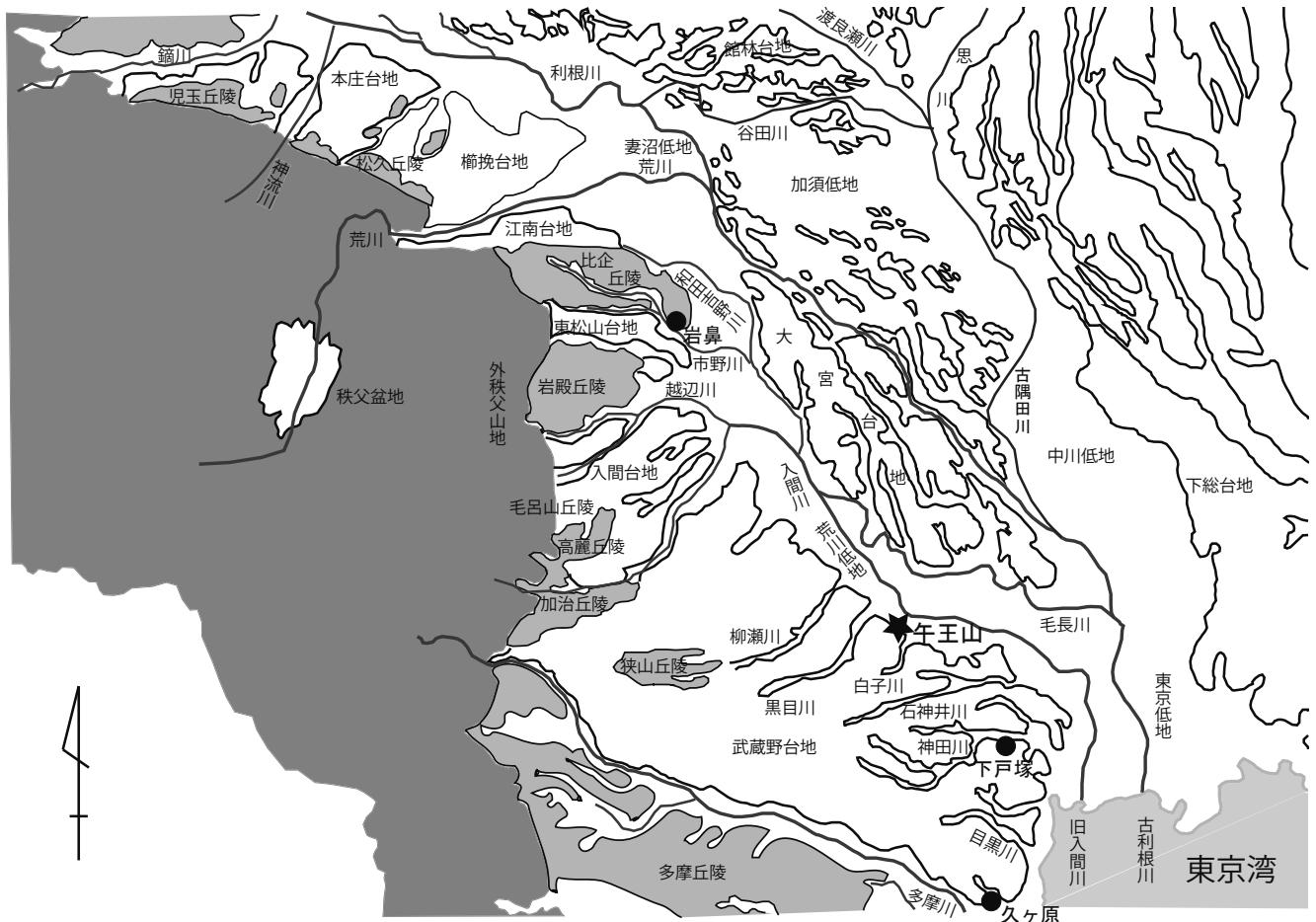


午王山遺跡の弥生土器を読みとく

柿沼 幹夫
(一般財団法人 さいたま市遺跡調査会)

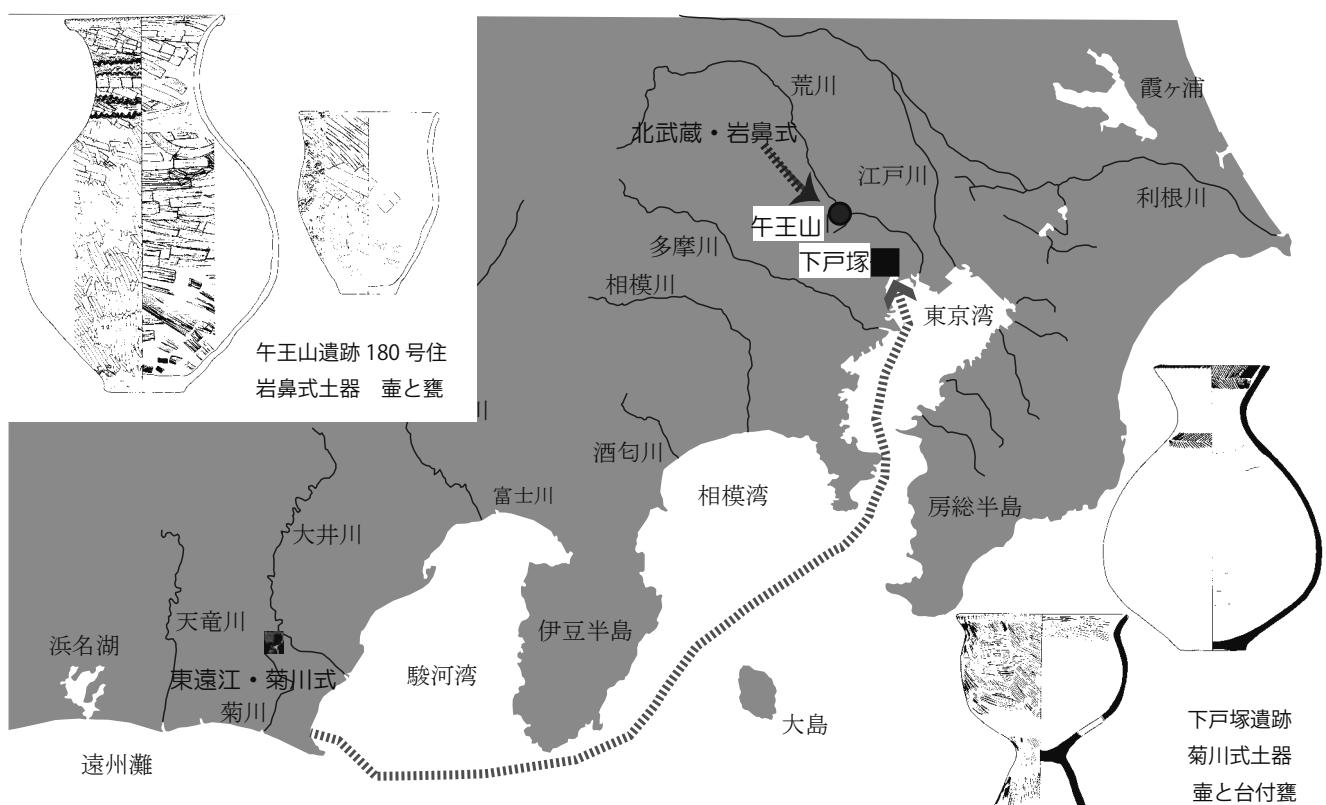


1. 地形区分と午王山遺跡の位置



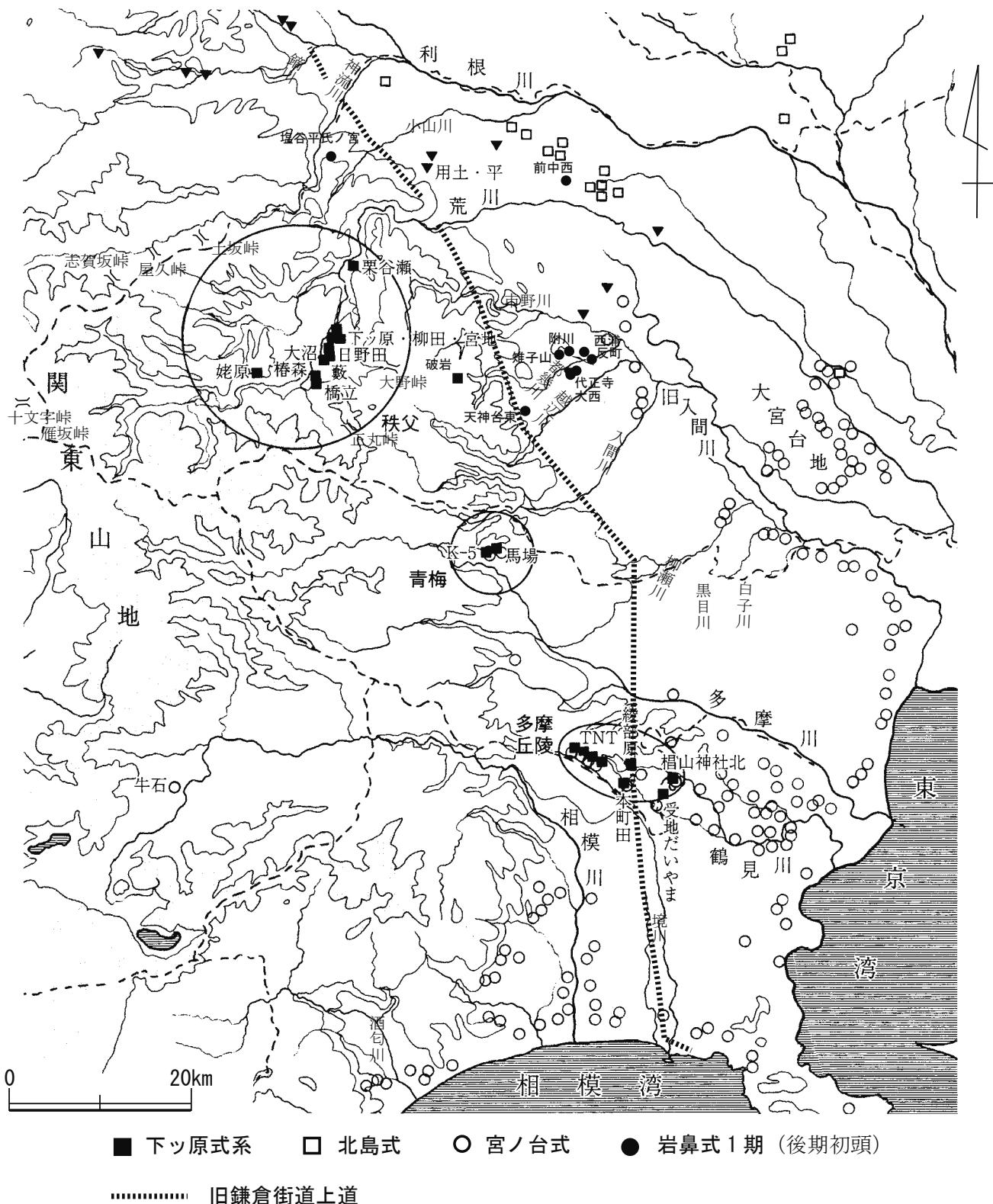
1. 地形区分と午王山遺跡の位置

2. 岩鼻式土器と菊川式土器の移動（後期前葉）



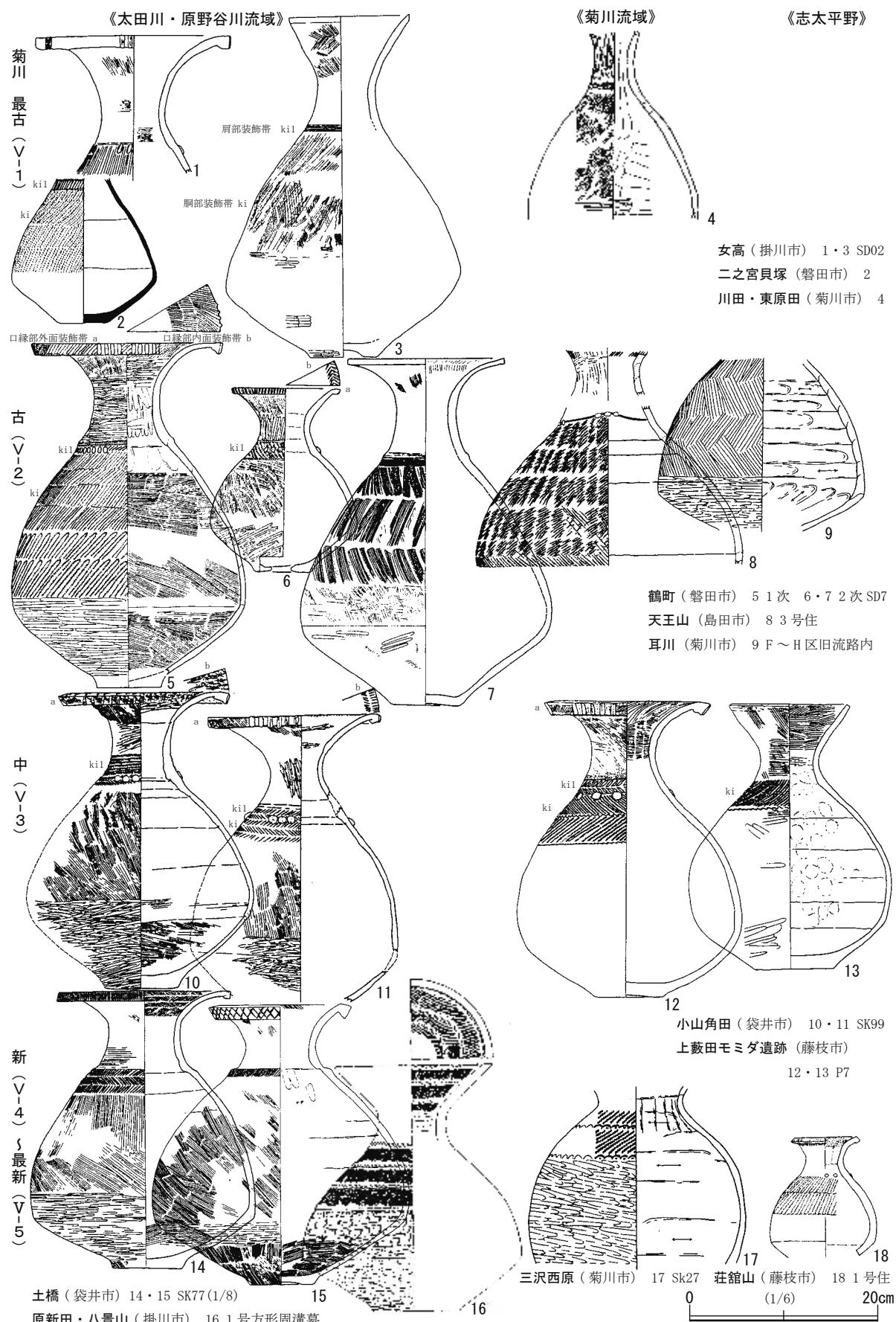
2 岩鼻式土器と菊川式土器の移動（後期前半）

3. 関東西部周辺の弥生時代中期後半から後期への移行時における遺跡分布

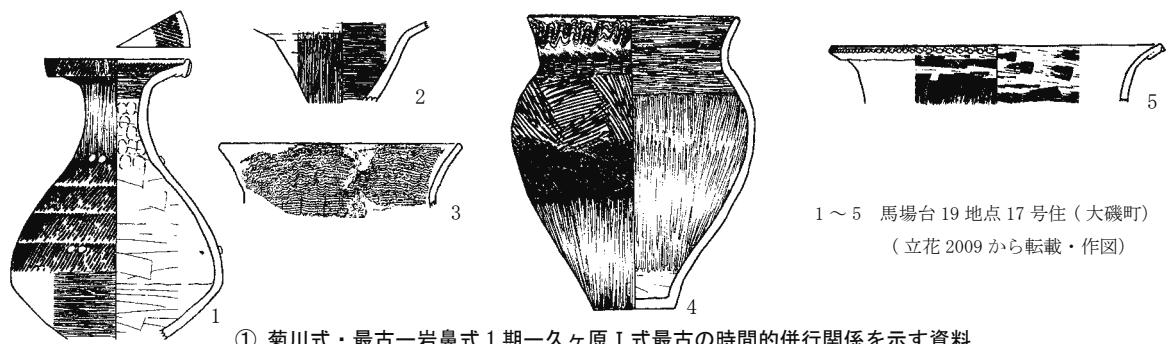


3 関東西部周辺の弥生中期後半から後期への移行時における遺跡分布

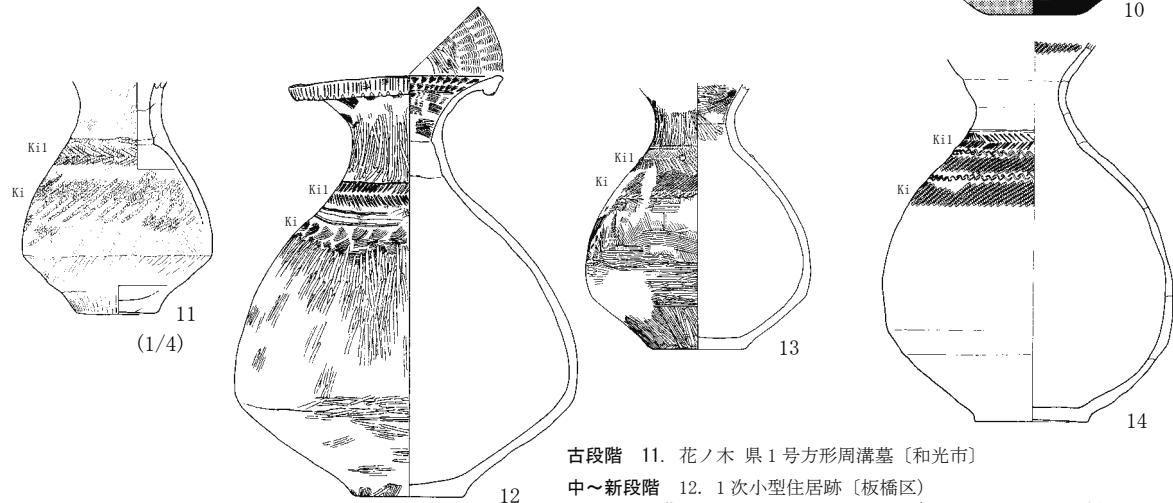
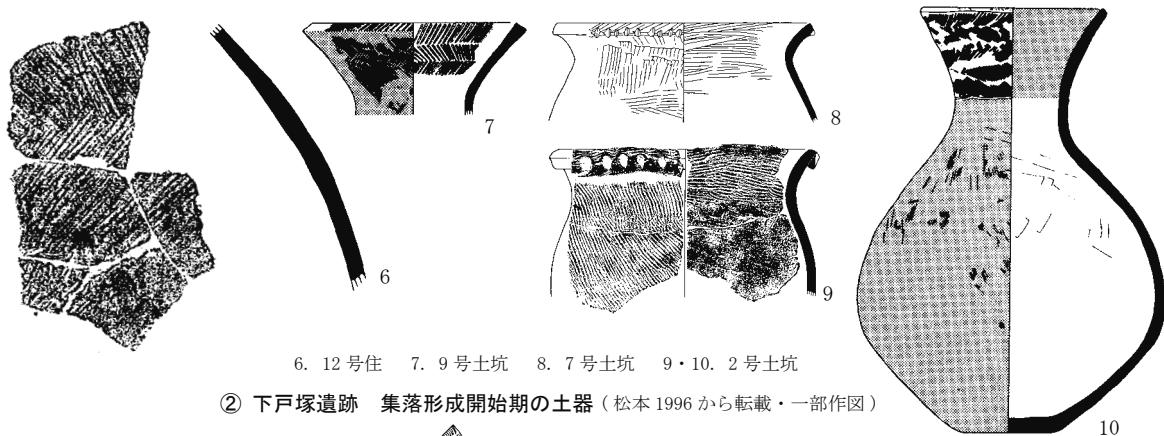
荒川中流域右岸地域の弥生時代後期初頭の岩鼻式土器の生成には、長野県北東部（北信・東信）から群馬県西部地方との関わりが深い。その一方で、関東西部山地や多摩丘陵との関係性も強く、相互間の交流ルートとして後世の鎌倉街道上ッ道沿いの「山辺の道」の存在を想定したい。岩鼻式土器を継承する後期中・後葉の吉ヶ谷式土器の段階にも、多摩丘陵との活発な交流が看取できる（上図は石川 2007 から転載・付加）。



4 菊川式土器 壺の編年 (抄) (篠原 2000・2001・2002 をもとに作図)



① 菊川式・最古一岩鼻式1期一久ヶ原I式最古の時間的併行関係を示す資料



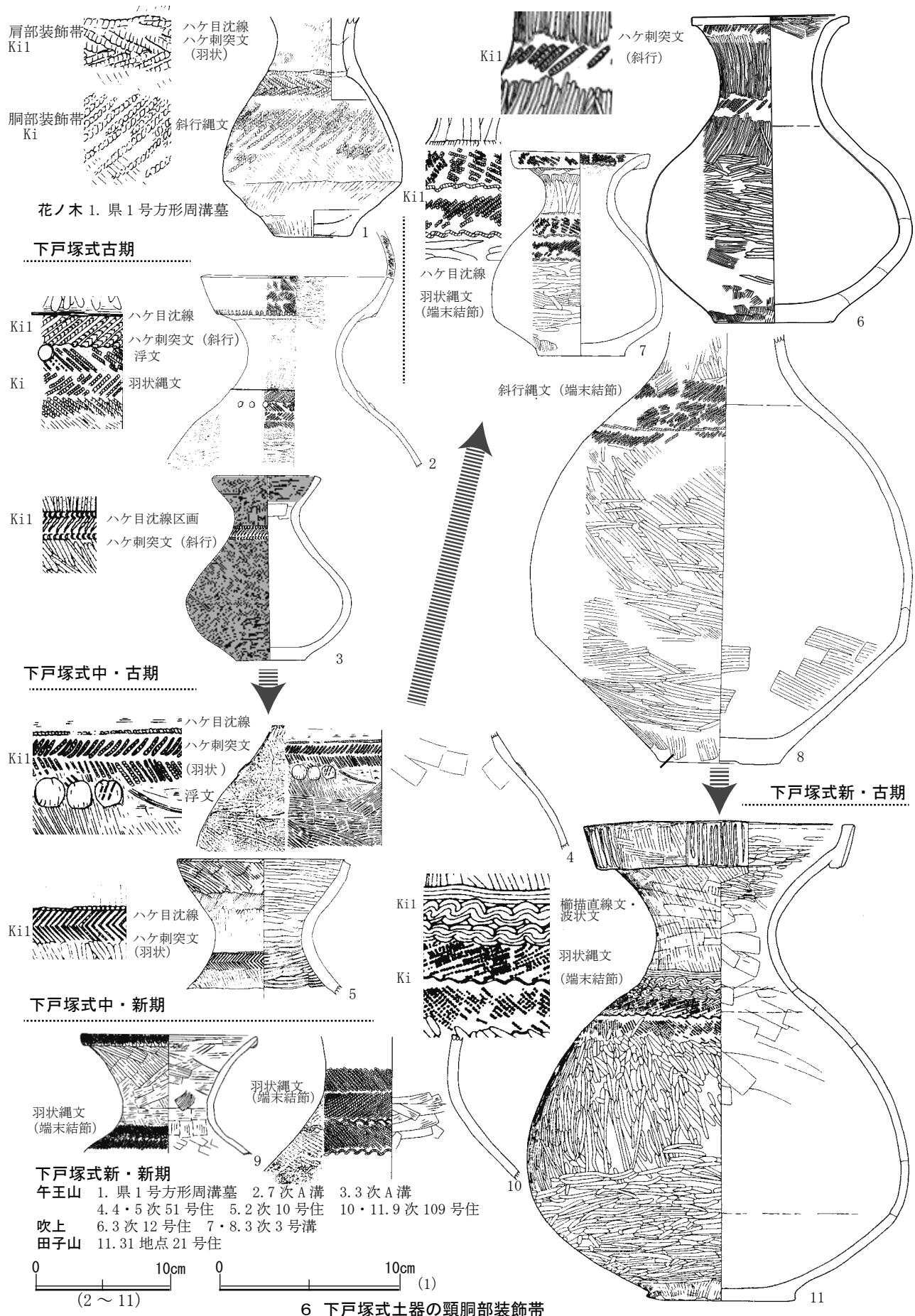
③ 菊川式土器の移動品又は忠実な模倣品（石坂 1994、小林理 1995、石川・藤波・他 1999、佐々木・小出・他 1984 から転載・付加）



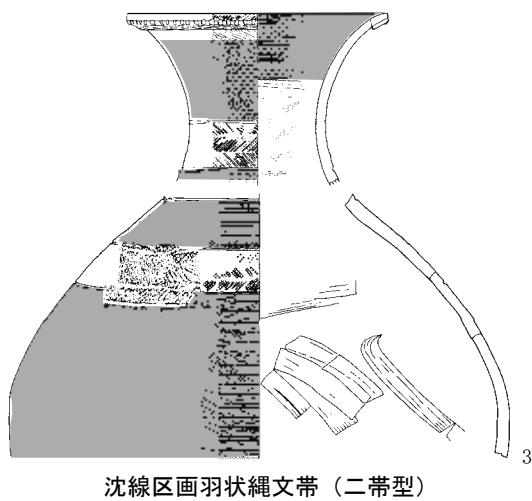
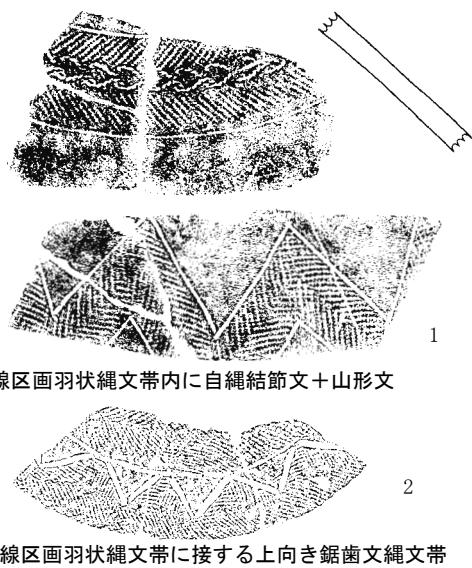
5 下戸塚式土器生成に関する土器群

武藏野台地東北縁における岩鼻式土器の南下と菊川式土器の東遷は、後期初頭までは溯らない。

- ① 後期初頭における菊川式最古一岩鼻式1期一久ヶ原式最古の関係を示す相模における出土事例。3・4 は中部高地型櫛描文土器でも甲斐系統だが、岩鼻式1期と併行するとの考えから代替している。
- ② 下戸塚遺跡における集落形成開始期の主な土器で、量的に少ない。出土遺構も土坑が多く、時期的にも菊川式最古（V-1）まではいかない。本格的な環濠集落形成期は下戸塚2期で後期前葉の後半段階とみられる。
- ③ 菊川式の東遷も継続的だが波状的で、11はV-2、12がV-3、13・14はV-3期でもモミダ型と呼ばれる西駿河系統である。東海東部からの情報伝達は継続的に更新されたが、その発信地は東駿河も含めた広域に及ぶ可能性を考慮する必要がある。

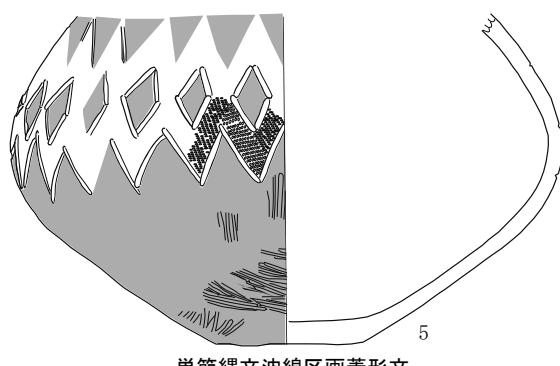
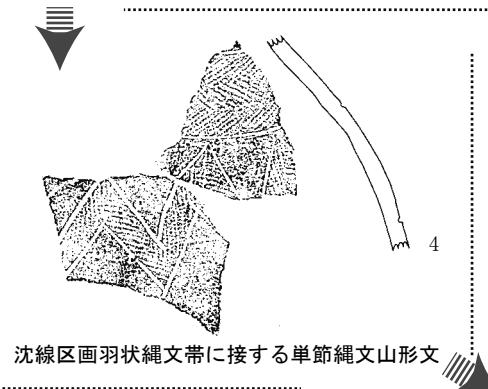


下戸塚式中・古期に伴う久ヶ原Ⅱ式古段階



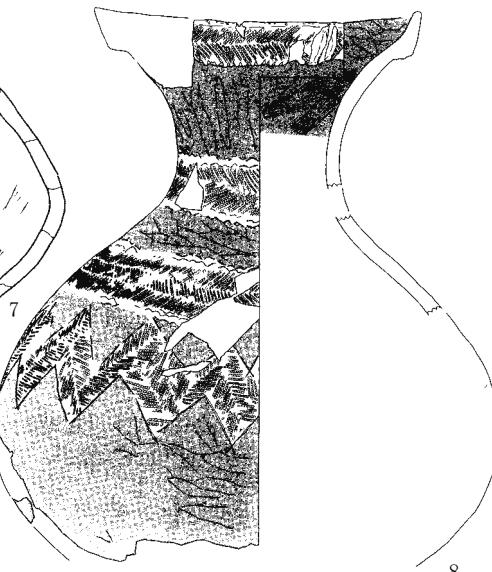
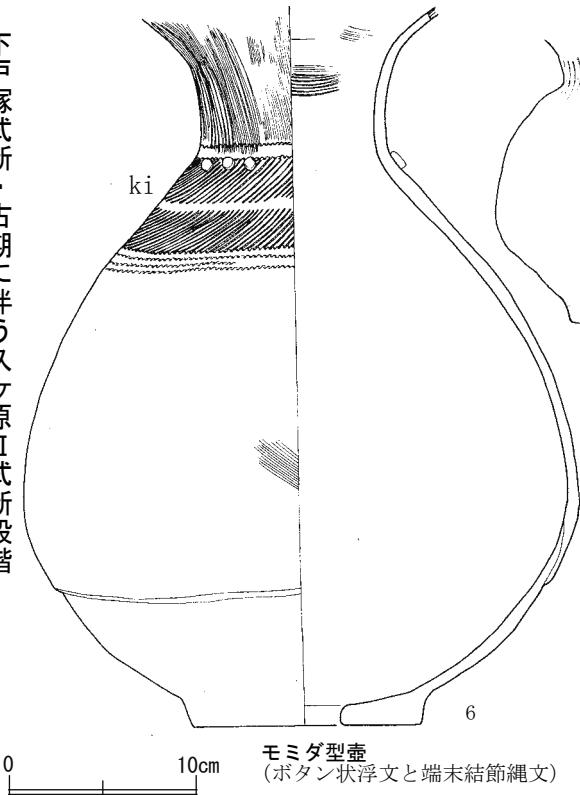
沈線区画羽状縄文帯（二帯型）

久ヶ原Ⅱ式新段階



単節縄文沈線区画菱形文

下戸塚式新・古期に伴う久ヶ原Ⅱ式新段階



結節文区画羽状縄文帯（二帯）+羽状縄文山形文

牛王山 1.8 次 91 号住 14 次 144 号住 3.7 次 A 溝

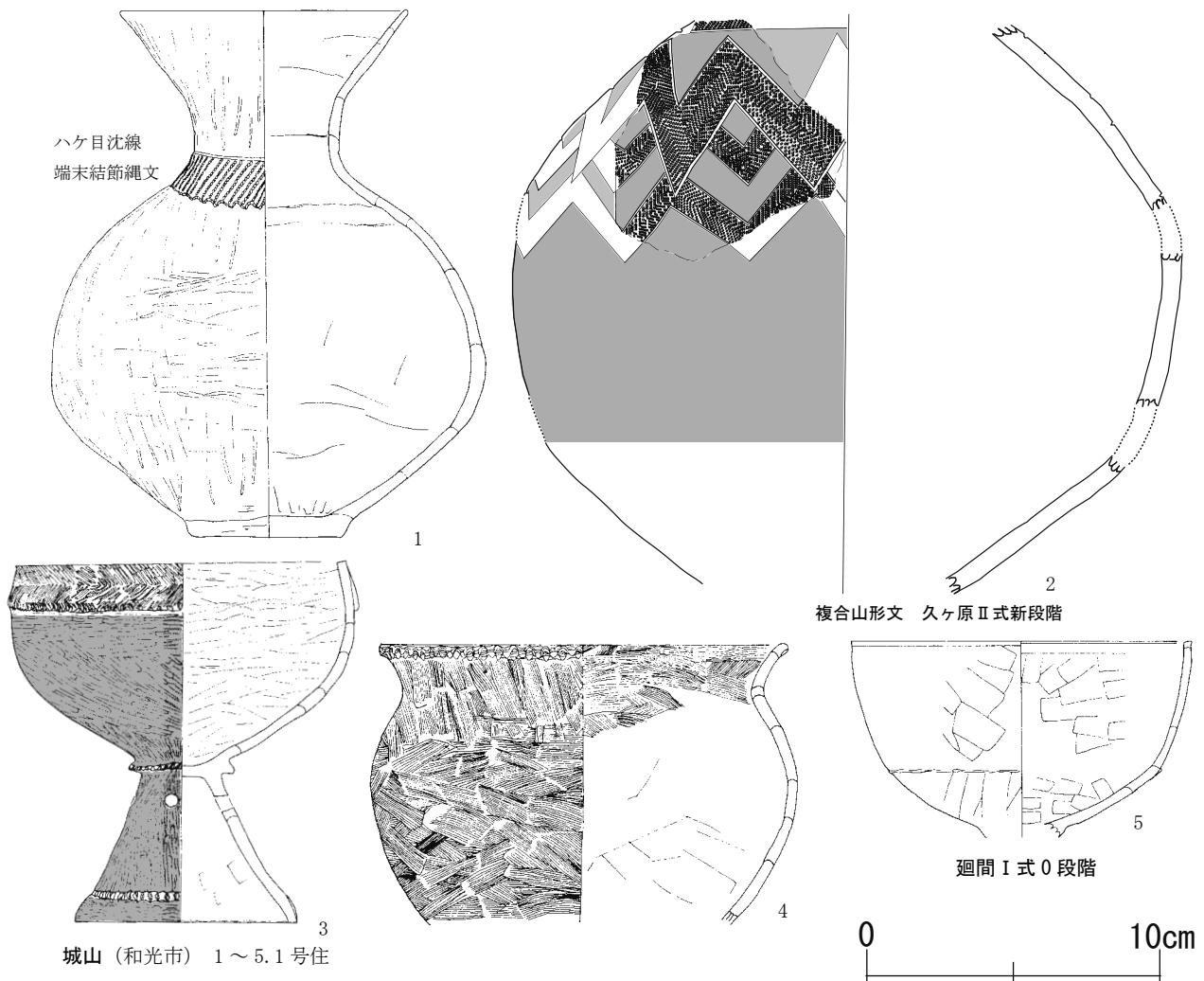
4.4 次 50 号住

吹上（和光市）5.3 次 2 号溝

東台（富士見市）6・7・8.2 合方形周溝墓

0 10cm
モミダ型壺
(ボタン状浮文と端末結節縄文)

7 下戸塚式土器中期と久ヶ原Ⅱ式土器との時間的関係



8 下戸塚式新・古期と東海西部系高壺との時間的関係

午王山遺跡の環濠集落形成期は下戸塚式中期で、その様相により中・新期に二分される。

下戸塚式中期 下戸塚式古期の装飾は、肩部装飾带 (Ki1) と胴部装飾带 (Ki) の分離が明確であるが、中期には胴肩部に装飾带がまとまり、Ki1 と Ki が一体化し簡略化が進む。簡略化の度合いにより、古・新に二分される。

① 古段階 一体化した Ki1 と Ki はボタン状浮文を挟んで上下に位置する。Ki1 のみの壺も、ハケ目沈線で上下区画するものが主体的である。

② 新段階 一体化したが、ボタン状浮文から下部を省略するなど Ki1 のみの構成となる。

また、ハケ目沈線区画したモノは上位区画のみで、下位は省略される。

下戸塚式新期 端末結節文が盛行する段階で、古・新に二分される。古段階は東海地方西部の廻間 I 式 0 段階前後に併行する (図 8)。

① 古段階 ハケ目沈線は残るが、沈線区画しない单斜方向のハケ刺突文が主体。モミダ型壺の影響を受けて端末結節の斜行縄文が盛行。S 字状結節文区画の久ヶ原式系土器が伴う。

② 新段階 端末結節とともに羽状縄文構成が目立ち、東海型櫛描文との併用がある。ハケ刺突文の去就は検討課題。幅広複合口縁や S 字状結節文区画など弥生町式土器に繋がる。

表 午王山遺跡とその周辺域 弥生時代中期後葉から後期末の編年試案

土器型式		武藏野台地東北縁(白子川・黒目川・柳瀬川流域)		北武藏		南武藏南部	東海				
		午王山遺跡 遺構	近隣遺跡・遺構	入間・比企	妻沼低地						
宮ノ台式	Ⅲ期	—	花ノ木4次10住	宮ノ台式 (代正寺式)	北島式 用土・平式	宮ノ台式Ⅲ期	白岩式				
	Ⅳ期	—				宮ノ台式Ⅳ期					
	Ⅴ期	82住、87住、133住	新屋敷第1地点6住			宮ノ台式Ⅴ期					
岩鼻式1期		—		岩鼻式1期		久ヶ原I式古	菊川式最古 菊川式古				
岩鼻式	2期古	1住、3住、72住、97住	冰川神社北方 稻荷山・郷戸9地点1住 花ノ木県1号方形周溝墓	岩鼻式2期古		久ヶ原I式新					
	2期新	74住、108住、124住、137住		岩鼻式2期新							
	3期	81住、105住、141住、(18住、119住)		岩鼻式3期							
下戸塚式古		—		吉ヶ谷1式I期		久ヶ原II式古	菊川式中 山中II式				
下戸塚式中・古		4住、8住、9住、11住、20住、24住、27住、 57住、59住、68住、73住、75住、84住、 86住、90住、91住、93住、100住、107住、 110住、113住、118住、121住、128住、 129住、138住、144住、A溝(3次2溝・ 7次2溝・5次A区1溝)	吹上3次26住・41住 四ツ木4次30住	吉ヶ谷1式2期		久ヶ原II式新					
下戸塚式中・新		5住、10住、12住、14住、16住、30住、 42住、44住、50住、51住、52住、58住、 63住、69住、77住、78住、88住、92住、 95住、130住、132住、142住、146住、 A溝(4次2溝・5次B区2溝・2次1溝・ 10次1溝・11次1溝)	中道・岡台3地点1溝 新屋敷1地点3住	吉ヶ谷1式3期							
下戸塚式新・古		19住、62住、(101住)	吹上3次12住、3次3溝 城山1住 東台3号方形周溝墓	吉ヶ谷2式1期			廻間I式				
下戸塚式新・新		23住、96住、104住、109住、114住	田子山31地点21住	吉ヶ谷2式2期		久ヶ原III式					
弥生町式 古		—	南通3地点105住 西原大塚349住	吉ヶ谷3式古							
弥生町式 新		—	市場峠・市場上18・19地点41住 北通38地点61住	吉ヶ谷3式新							
前野町式 古		—	市場峠・市場上24次80住 富士前15地点1号住 南通3地点129住	日吉台			廻間II式 前 半				
前野町式 新		—	南通3地点109住 成増一丁目2号住	吉ヶ谷3式新			廻間II式 後 半				

* 宮ノ台式 安藤(1990)、久ヶ原式(安藤2017)、北武藏(柿沼2023)、菊川式(篠原2001)、
廻間式(赤塚2002)

《参考・引用文献》

- 赤塚次郎 2002 「II 濃尾平野における弥生時代後期の土器編年」『八王子遺跡 考察編』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集 pp.25-48 財団法人愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター
- 安藤広道 1990 「神奈川県下末吉台地における宮ノ台式土器の細分」上・下『古代文化』第42卷第6・7号 古代学協会
- 安藤広道 2009 「東京湾西岸～相模川流域の後期弥生式土器の検討」『南関東の弥生土器2—後期土器を考える—』考古学リーダー16 pp.114-128 関東弥生時代研究会・埼玉弥生土器観会・八千代栗谷遺跡研究会編 六一書房
- pp.279-286 西相模考古学研究会 西川修一・古屋紀之編 六一書房

- 安藤広道 2017「久ヶ原遺跡と久ヶ原式土器」『土器から見た大田区の弥生時代—久ヶ原遺跡発見、90年—』 pp.152-161 平成28年度特別展 大田区立郷土博物館
- 石川日出志・藤波啓容・他 1999『西台後藤田遺跡発掘調査報告書—第1地点—』 東京都住宅局、都内第二遺跡調査会 西台遺跡調査団
- 石川日出志 2007「弥生時代中期後半の関東地方西部域」『さいたまの弥生時代』 pp.226-248, 埼玉弥生土器観会編
- 石川日出志 2008『「弥生時代」の発見 弥生町遺跡』シリーズ「遺跡を学ぶ」050 新泉社
- 石川安司・柿沼幹夫・宅間清公 2017「ときがわ町破岩遺跡—関東地方西部域 弥生時代中期末葉の遺跡・遺物の一例—」『埼玉考古』第52号 pp.19-30 埼玉考古学会
- 石坂俊郎・他 1994『花ノ木・向原・柿ノ木坂・水久保・丸山台』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第134集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 市毛 熊・車崎正彦・松本 完・他 1996『下戸塚遺跡の調査』第2部 早稲田大学校地埋蔵文化財踏査室編 早稲田大学
- 江原 順 1998「朝霞市郷戸遺跡出土の土器」『あらかわ』創刊号 あらかわ考古談話会
- 照林敏郎・江原 順 2002『中道・岡台遺跡第3地点発掘調査報告書』朝霞市埋蔵文化財調査報告書第20集 朝霞市教育委員会
- 大磯町編 2007『大磯町史10別冊 考古』
- 大村 直 2004『市原市山田橋大山台遺跡』市原市文化財センター調査報告書第88集
- 尾形敏則 1998「志木市田子山遺跡の弥生時代後期の事例について—田木山遺跡第31地点の弥生時代21号住居跡出土の資料—」『あらかわ』創刊号 pp.35-53 あらかわ考古談話会
- 尾形則敏 1999「第3章 富士前遺跡第15地点の調査」『志木市遺跡群9』志木の文化財第27集 pp.16-21 埼玉県志木市教育委員会
- 柿沼幹夫 2006「岩鼻式土器について」『土曜考古』第30号 pp.1-28 土曜考古学研究会
- 柿沼幹夫 2009「補足・意見」『南関東の弥生土器2—後期土器を考える—』考古学リーダー16 pp.192-202 関東弥生時代研究会 埼玉弥生土器観会 八千代栗谷遺跡研究会編 六一書房
- 柿沼幹夫 2023「北武藏の弥生後期土器 吉ヶ谷式土器」前橋市柏川歴史民俗資料館令和4年度秋期企画展関連講座レジュメ
- 栗原文蔵・野部徳秋 1973『岩の上・雉子山』埼玉県遺跡発掘調査報告書第1集 埼玉県教育委員会
- 黒沢 浩 2003「神奈川県二ッ池遺跡出土弥生土器の再検討—二ッ池式土器の提唱—」『明治大学博物館研究報告』第8号 pp.21-58 明治大学博物館事務室
- 黒沢 浩 2005「南関東における弥生時代後期土器群の動向—二ッ池式土器の検討を中心に—」『駿台史学』第124号 pp.49-72 駿台史学会
- 小出輝雄 1978『富士見市中央遺跡群I』文化財調査報告第15集 富士見市教育委員会
- 小出輝雄 1983『針ヶ谷遺跡群—南通遺跡第3地点の調査—』富士見市遺跡調査会調査報告第21集 富士見市遺跡調査会
- 小出輝雄 2006「埼玉の弥生後期土器についての一考察(予察)」『埼玉の考古学II』 pp.251-260 埼玉考古学会編 六一書房
- 小林理恵 1995「西台遺跡」『板橋区史 資料編1 考古』 pp.502-507 板橋区
- 埼玉考古学会編 1976『埼玉県土器集成4』
- 今泉泰之「附川遺跡」 pp.31-32 図版7
- 齋藤あや 2017『土器から見た大田区の弥生時代』平成28年度図録 大田区立郷土博物館
- 斎藤 純 2010「第8章 稲荷山・郷戸遺跡第9地点の調査」『朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告集報』朝霞市埋蔵文化財調査報告書第33集 朝霞市教育委員会
- 斎藤瑞穂 2010「下戸塚式という視点」『古代』第123号 pp.53-72 早稲田大学考古学会
- 斎藤瑞穂 2018「第9章 下戸塚式という視点—関東地方後期弥生土器型式の提唱—」『弥生土器型式細別論』 pp.140-159 同成社

- 佐々木保俊・小出輝雄 1984 『針ヶ谷遺跡群』 富士見市遺跡調査会調査報告第 23 集 富士見市遺跡調査会
- 佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳 『西原大塚遺跡Ⅱ』 埼玉県志木市西原特定土地区画整理組合 埼玉県志木市教育委員会
- 笛森紀己子 1984 「久ヶ原式から弥生町式へ—壺形土器の文様を中心に—」『土曜考古』第 9 号 pp.17-40 土曜考古学研究会
- 佐原 真 1987 「9 補稿 2.B. 遠賀川系土器の技法」『弥生文化の研究』4 弥生土器Ⅱ pp.218-222 雄山閣
- 鮫島和大 1994 「南関東弥生後期における縄文施文の二つの系統」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第 12 号
- 篠原和大・山下英郎 2000 「静岡県における後期弥生土器の編年」『東日本弥生時代後期の土器編年』〔第 1 分冊〕 pp.72-197 東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会 福島県立博物館
- 篠原和大 2001 「駿河地域の後期弥生土器と土器の移動（補遺）」『シンポジウム 弥生後期のヒトの移動～相模湾から広がる世界～』資料集 pp.58-67 西相模考古学研究会
- 篠原和大 2002 「第 I 部 各地域の様式と編年 5 (2) 東遠江 第 V 様式」『弥生土器の様式と編年 東海編』 pp.589-610 加納俊介・石黒立人編 木自社
- 篠原和大 2009 「南関東・東海東部地域の弥生後期土器の地域性—とくに菊川式土器の東京湾北東岸への移動について—」『南関東の弥生土器 2—後期土器を考える—』 pp.246-254 関東弥生時代研究会 埼玉弥生土器観会 八千代栗谷研究会編 六一書房
- 設楽博己 2011 「弥生式土器の発見」『弥生誌一向岡記碑をめぐって』 pp.62-72 東京大学総合研究博物館
- シンポジウム南関東の弥生土器実行委員会編 2005 『南関東の弥生土器』考古学リーダー 5 六一書房
- 加納俊介 p167
- 黒沢 浩「5. 弥生町式と前野町式」 pp.49-55
- 松本 完「4. 久ヶ原式」 pp.40-48
- 鈴木一郎 2001 『峯前遺跡（第 3 次） 花ノ木遺跡（第 4 次） 吹上遺跡（第 4 次） 吹上原遺跡』和光市教育委員会
- 鈴木一郎 2003 『吹上遺跡（第 3 次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第 30 集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会
- 鈴木一郎 2004 『四ツ木遺跡（第 4 次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第 34 集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会
- 鈴木孝之 1991 『代正寺・大西』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 110 集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木 徹・他 2006 『成増百向遺跡第 5 地点』扶桑レクセル 共和開発 アルケーリサーチ
- 鈴木敏弘・他 1981 『成増一丁目遺跡発掘調査報告』成増一丁目遺跡調査会
- 鈴木敏弘 1995 『赤塚氷川神社北方遺跡』『板橋区史 資料編 1 考古』 pp.430-453 板橋区
- 立花 実 2009 「II 討論の記録 7. 大磯町馬場台遺跡第 19 地点の資料をめぐって」『南関東の弥生土器 2—後期土器を考える—』考古学リーダー 16 pp.164-168 関東弥生時代研究会 埼玉弥生土器観会 八千代栗谷遺跡研究会編 六一書房
- 照林敏郎・他 2008 『稻荷山・郷戸遺跡第 8 地点発掘調査報告書』朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告書第 26 集 朝霞市教育委員会
- 照林敏郎・江原順・他 2012 『中道・岡台遺跡第 3 地点発掘調査報告書』朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告書第 20 集 朝霞市教育委員会
- 轟 直行 2017 「菊川式土器の成立に関する研究」『古代文化』VOL.69 pp.22-40 公益財団法人古代学協会
- 中嶋郁夫 1988 「いわゆる「菊川式」と「飯田式」の再検討」『転機』2 号 pp.119-150
- 中嶋郁夫 1991 「東海地方東部における後期弥生土器の「移動」・「模倣」—「菊川様式」編—」『東海系土器の移動から見た東日本の後期弥生土器』『転機』4 号 pp.75-94 第 8 回東海埋蔵文化財研究会
- 早坂廣人 1991 「第 4 章 北通遺跡第 38・39 地点」『富士見市遺跡群 IX』富士見市文化財報告第 41 集 埼玉県富士見市教育委員会
- 原 祐一 2009 『東京大学本郷溝内の遺跡 浅野地区 I』東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 9 東京大学埋蔵文化財調査室
- 堀 善之 2005 「東台遺跡第 24 地点」『富士見市内遺跡 X III』富士見市文化財報告第 57 集 埼玉県富士見市教育委員会

- 古屋紀之 2015「南武藏地域における弥生時代後期の小地域圏とその動態」『列島東部における弥生後期の変革～久ヶ原・弥生町期の現在と未来～』考古学リーダー 24 pp.19-35 西相模考古学研究会 西川修一・古屋紀之編 六一書房
- 古屋紀之 2018「久ヶ原・弥生町問題再論」『西相模考古』第 27 号 pp.41-67 西相模考古学研究会
- 牧田 忍 1998『花ノ木遺跡第 2 次 城山遺跡』和光市埋蔵文化財調査報告書第 21 集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会
- 松本 完 1996「第 4 章 第 1 節 出土土器の様相と集落の変遷」『下戸塚遺跡の調査』第 2 部 pp.581-647 早稲田大学校地埋蔵文化財調査室編 早稲田大学
- 松本 完 2007「武藏野台地北部の後期弥生土器編年」『埼玉の弥生時代』pp.263-290 埼玉弥生土器観会編 六一書房
- 依田賢仁 2013『市場峠・市場上遺跡(第 18・19 次調査)』和光市埋蔵文化財調査報告書第 51 集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会
- 依田賢仁 2015『市場峠・市場上遺跡(第 24 次調査)』和光市埋蔵文化財調査報告書第 58 集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会 11